

山陽小野田市立山口東京理科大学大学院 工学研究科  
修士課程 学位論文評価基準

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、工学研究科修士課程における学位論文の評価基準を次のとおり定める。

○審査基準

| 専攻     | 審 査 基 準   |
|--------|---|
| 工学専攻   | <p>修士(理学)</p> <p>研究背景と解決すべき問題に関する明確な理解、実験データや調査結果に関する適正な解析と解釈、明快な論理的展開等に関する実績に基づく総合的な評価基準を満たし、当該分野の学術的基礎あるいは応用や関連する産業の発展等に寄与する一定の内容を包含しているかを審査する。</p> <p>修士(工学)</p> <p>研究課題が学術的、社会的に価値があり、関連分野への貢献が期待できるものであること、研究対象となる問題の設定や研究方法、研究内容について独創性があること、関連する先行研究に適切に言及していること、テーマに応じた研究・分析・評価結果及び関連資料を用いて論理的かつ明快に展開され、合理的な結論が導き出されていることを審査する。</p> |
| 機械工学専攻 | <p>新規性又は独創性があり、機械工学分野における今後の発展に貢献する内容を含むか、又は研究遂行に必要な基礎知識・理解力・問題解決能力等を証明する独自の考察を含んだ自著の論文であるか審査する</p>   |
| 電気工学専攻 | <p>研究課題が学術的、社会的に価値があり、電気工学分野への貢献が期待できるものであること、研究対象となる問題の設定や研究方法、研究内容について独創性があること、関連する先行研究に適切に言及していること、テーマに応じた研究・分析・評価結果及び関連資料を用いて論理的かつ明快に展開され、合理的な結論が導き出されていることが求められる。成果の一部が学外の学会あるいはシンポジウム等で発表されていることが望ましい。</p>  |
| 応用化学専攻 | <p>応用化学関連の先行研究を適切に引用し、研究の背景と目的が適切に述べられていること、論文の記述（本文、図、表、引用など）が十分かつ適切であり、結論に至るまで首尾一貫した論理構成になっており、論理的に明確な結論が導かれていること、目的に沿った研</p>   |

|          |   |
|----------|---|
|          | 究方法で明確かつ詳細な分析と考察がなされており、研究結果を再現するための十分な情報を含んでいること、および当該研究分野において学術的又は社会的な意義を有するかを審査する。   |
| 数理情報科学専攻 | 研究課題が学術的、社会的に価値があり、情報科学関連分野への貢献が期待できるものであること、研究対象となる問題の設定や研究方法、研究内容について独創性があること、関連する先行研究に適切に言及していること、テーマに応じて実施した実験・シミュレーション・データ解析等を含む研究の結果が明快に示されていることが求められる。その内容の全部又は一部が学外の学会あるいはシンポジウム等で発表されていることが望ましい。 |

○審査体制・評価方法・評価項目・評価基準（各専攻共通）

|      |  |
|------|--|
| 審査体制 | 学位論文の審査及び最終試験は、主査1名、副査2名以上の計3名以上からなる学位論部審査委員の合議により行う   |
| 評価方法 | 学位審査委員は、審査項目を基に論文審査及び最終試験を行う。論文審査及び最終試験は、論文審査出願者ごとに発表及び口頭試問により行う。  |
| 評価項目 | <p>(1) 研究目的<br/>関連の先行研究を適切に引用し、研究の背景と目的が適切に述べられていること。</p> <p>(2) 論文の体裁<br/>論文の記述（本文、図、表、引用など）が十分かつ適切であり、結論に至るまで首尾一貫した論理構成になっており、論理的に明確な結論が導かれていること。</p> <p>(3) 研究方法<br/>目的に沿った研究方法、調査・実験方法、論証方法を採用し、具体的な分析・考察がなされており、研究結果を再現できるだけの具体的な情報を含んでいること。</p> <p>(4) 研究成果<br/>当該研究分野において学術的又は社会的な意義を有すること。</p> |
| 評価基準 | 論文審査及び最終試験は、可否により評価する。   |